

## サハ共和国・ヤクーツクだより ⑪

杉嶋俊夫

この連載の第一回を載せていただいたのが昨年5月号。ちょうどあれから一年経ちました。これで最終回となります。今回はヤクーツクで出会った青年のことを中心に記したいと思います。

### ◆サハ人青年・ステパン君

雪も解け、だいぶ外が歩きやすくなったある日、私のことを「友達から聞いて会いたくなった」との電話がありました。電話をかけてきたのは、まだ二十代前半の青年。日本や海外と関わればいいことがあるなどと安易に考えているのでは？ と思いたくなくなってしまったような人々が私に接触してくることが過去に何度かあったので、「またその手の電話か...」と少々迷いましたが、会ってみることにしました。

会って話を聞いてみると、すでに日本に一年弱留学したことがあり、日本語もそれなりに話せる、とのこと。生い立ち、日本での体験などを聞いていくうちに、彼が真面目な青年であることがわかりました。

彼の名はステパン君。会ったのは回数だけでしたが毎回、彼の多芸さと知識の豊かさに驚かされました。サハの歴史と文化に関する知識も膨大で、その大半は、日本滞在中にサハについて度々訊かれるので、自分で調べて身につけたのだそうです。現在、彼は工芸作家・ミュージシャンとして活躍中です。ステパン君作詞の日本語の歌もインターネットで聞くことができます。

(Yume <https://www.youtube.com/watch?v=gDAPVgsznGI>)

私がお世話になった北東連邦大学にも彼のような才能溢れる若者たちがいました。これから大いに活躍してほしいものです。赴任当初に抱いていた希望のいくつかは残念ながら叶いませんでしたが、このようなユニークな人々との出会いには恵まれた4か月間でした。



**ステパン君** 最近、本人がEメールで送ってくれた写真。彼は作詞だけでなく作曲もします。ロックグループRokudoとしての演奏活動は今年の5月から開始するそうです。

## ◆ サハ関連の新刊の紹介

今回もまた「ニュース」をひとつ。つい最近、『水・雪・氷のフォークロア-北の人々の伝承世界』(山田仁史・永山ゆかり・藤原潤子編、勉誠出版)という本が出版されました。サハ、ユカギールやその他のシベリアの諸民族の物語・民話から自然環境との関わりを探るという内容です。こうして「近くて遠い」サハ共和国や周辺地域のことを日本語で知る機会が増えて嬉しく思います。



**アイスクリーム屋さん** こちらも真夏の暑い日にレーニン広場で撮った写真。他のロシアの都市同様、アイスクリームは、バス停のそばにあるキオスクや車で売られています。



**レーニン広場で見かけた馬** ヤクーツクでは暖かくなると、市の中心にあるレーニン広場で有料で馬に乗せてくれます。サハには大別すると、サハの馬とロシアからの外来の馬の、2種類いるそうです。この写真の馬は、後者。



**高床式アパート** ヤクーツクの建物は大半が高床式です。永久凍土地帯なので、長い杭を打ち込んで、建物から出る熱で表層の氷が溶けないように「床を浮かせて」建てるのです。

日本に帰国して、はや、9か月が過ぎました。ヤクーツクに関わったおかげで、帰国後も意外な再会や面白い出会いが続いています。私は一昨年まで、二度とロシアを訪れることはないと思い込んでいました。そんな人間がサハ共和国で生活できたことは幸運としか言いようがありません。

再びヤクーツクを訪れることは当分ないかもしれませんが、滞在中に頂いたご縁は大切に生かしていきたいと思います。最後に、この連載のチャンスを下さった‘わんりい’の田井さん、お読みくださった方々、ヤクーツクでお世話になった皆さんに、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

**杉嶋俊夫 略歴：**東京都町田市生まれ。千葉大学卒。大学で認知心理学を専攻、途中で言語学に転向、シベリア先住民の言語を学ぶ。院在籍時に西シベリア・トムスクの大学に留学したことがきっかけで、トムスク市やロシア西部・リャザン市にある大学で日本語を教える。今回の派遣も、リャザン大学の時と同じ日露青年交流センターの派遣プログラムによる。